



特 別  
子 12  
3656  
22





みゆに城をゆくづきの城は  
雲の西の大をよるよる  
りやくれすきあまき乃や  
糸山乃糸葉乃の糸就田乃  
川ふ葉よくわづく  
糸はくや就田川よはきよはは  
川を流る明神ふ葉りやと

詞

おのひはなましくり川か

三拍

わくわ斬ひるへ葉かとのひ

早詞

うきやあ川を流るの株よ

葉かんと何よ何よ川か

三拍

流るうとは何よ川か

あふ神よ葉のたのしも神魚ふ

ありんたあなもくやあも

あゝて渡り流はし神と人との  
中や熊さんよ〜くあ〜ん〜  
わ〜わ〜竹〜 実々思ふ〜たわ

新田川お葉見た事して流るぬ

わた〜の孫中やた〜た〜んとの

吉哥の〜流流おも〜とや

中〜お事〜は哥の紅葉のあふ

ち〜う〜き〜孫流〜れ流〜る〜

な〜終〜わ〜た〜い〜う〜き〜た〜ん〜や

熊さんとな〜わ〜う〜終〜し〜し〜終〜

ぬ〜う〜き〜あ〜〜流もあ〜りも〜ん〜ち〜と

中〜の〜社〜乃〜神〜神〜乃〜を〜う〜神〜も

あ〜る〜入〜は〜い〜と〜い〜ま〜め〜終〜

も〜あ〜わ〜 実々〜う〜終〜の〜ち〜あ〜る

かきとみおき乃はも可すまを  
川乃れももうの氷少を立浪  
さもえくぬなわゆるさきを折入  
渡り申らん  
はとらありこほりまもま申  
おせとみわさかめもさ物を  
かきおきおきおきおきおきおき  
おきおきおきおきおきおき

三  
おきおき又申おきとめくれ  
める成るや  
おきおきおき

三  
はつのはつ又可及家陸の奇  
おきおきおきおきおきおき  
おきおきおきおきおきおき

三  
わたはははも中やたなんと  
おきおきおきおきおきおき  
おきおきおきおきおきおき  
おきおきおきおきおきおき

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二  
 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
 川 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二  
 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
 心 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二  
 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二  
 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二  
 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二  
 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

早月

めり成人みそて流るる早月

神重もくしる明神へは来るなり

流るる家へ下るる一

嬉しや流れりきうけりるる人

是あう就田乃明神より流るる

能く内拜三人

しあいの雲少わ月な流るる来くと

早月

格もみ<sup>り</sup>て<sup>き</sup>き<sup>さ</sup>ひ<sup>き</sup>  
社政乃<sup>り</sup>き<sup>り</sup>き<sup>り</sup>き<sup>り</sup>わ<sup>なる</sup>  
別業一本<sup>り</sup>たるは是<sup>に</sup>は<sup>は</sup>神木  
よりし<sup>む</sup>り<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup>宙<sup>國</sup>三<sup>臨</sup>乃  
明神乃<sup>は</sup>神木<sup>に</sup>格<sup>なる</sup>乃<sup>は</sup>道<sup>社</sup>に  
紅<sup>さ</sup>よ<sup>め</sup>て<sup>は</sup>ふ<sup>よ</sup>む<sup>わ</sup>あ<sup>業</sup>を  
神木と<sup>あ</sup>り<sup>め</sup>案<sup>と</sup>ん<sup>て</sup>あ<sup>業</sup>也  
日

我國<sup>に</sup>我<sup>め</sup>ら<sup>め</sup>ら<sup>わ</sup>る<sup>は</sup>し<sup>は</sup>  
下<sup>カ</sup>神<sup>よ</sup>ま<sup>り</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>あ</sup>業<sup>と</sup>し<sup>は</sup>  
和<sup>光</sup>同<sup>善</sup>ハ<sup>結</sup>縁<sup>乃</sup>シ<sup>メ</sup>ハ<sup>あ</sup>  
成<sup>る</sup>ハ<sup>利</sup>物<sup>乃</sup>也<sup>下</sup>あ<sup>業</sup>也<sup>也</sup>  
あ<sup>る</sup>は<sup>る</sup>神<sup>と</sup>あ<sup>る</sup>和<sup>光</sup>乃<sup>は</sup>影<sup>也</sup>  
さ<sup>ら</sup>う<sup>へ</sup>て<sup>は</sup>我<sup>亦</sup>を<sup>ま</sup>も<sup>わ</sup>る<sup>也</sup>  
し<sup>は</sup>あ<sup>る</sup>ふ<sup>は</sup>ら<sup>ひ</sup>い<sup>づ</sup>ぬ<sup>き</sup>

とわあへぬおりのあま心  
ふきあめ雲をぬき時祿あはれ  
祿あひ心もすこわゆるお田乃  
いかにかの少く川音もなれ  
さえまやま夕暮らやまめくら  
りめんとくをなまお田乃  
甲のこくお神業にたたり

し女子のもすう成るてゆ成  
のこくくふあゆくの救くふ  
うひくくかるとんるほとり  
あきやあはたのたの神聖と  
あはれはるの我の海と  
神はお田乃の我をわと名乗も  
あはれはるの我をわと名乗も



く晴か弁おうて成うらりあいき  
社檀乃戸ひう成押開き清殿よ  
いどたまひくわ 祿乃  
清あは通教をてくき清  
告をまのせとを袖をうこしき  
あふくわく 祿ハ非礼を  
交好しひの上清しや露田お川

上塊

法履志きうわに明勅しきき  
清くもあうこふ 有明お月  
とり 火乃ひくわ 和光回墓  
を乃川くひわもあきお玉垣  
かこやきくあうたすし清神解  
あふりれくわ わき初初  
おけうくおあきほ可下地を

志めく内代をまもわしを  
か護し一為業乃こもハ業の業  
すふりちかこたさささ成爲  
初ハ終僧法味りのたて  
兼守り神燃あきうりなわ

本司 概はさきま法わに法神とけ各  
宙社乃法まなわむく天祀能

見くも乃わす浦あきうりなわ

見くももうや 志まほの道成

寶山よ玉道あめはちおきまら

見よ能ため一民安をよ由たの

なるも備よ宙社乃法申へさわ

本は浦乃秋の四ち能さ秋の

見うけ固あうわ とくく

もろくも葉流る新田川うかとも  
あまのともまをふふ山も動を  
海も浪志所りあへたの志  
乃この秋終る名あうはた乃  
山うきも志流るなるわくは  
世に新舟人もあうはをうめ  
あまのうの新田乃山の物露を

もろくもあはたは紅きよ  
あまの舟へいあまのわいの新田  
揚るうこき夕日や花乃志と  
下、あまのうと新舟もは研大舟  
心をうめ新舟なる神傳  
は家の名やくはるうん新田乃  
川乃三川のふくあとも和光乃

うけいあきうけきまぬ乃月  
於てる也新田川新葉見た新  
あとかも新也ツツハハ録乃  
はるこほまおさうもんちあ  
くはく一也ゆはく乃もんち  
うき総て着新わたりハ新葉も  
新も重て中た申あ一也いん

ひるハわたせき  
新神楽乃く時級ともうわて  
き総て新もんちハハ月も  
新もさうしりきさわあを  
あハ新也 禮儀 きい  
久うこお月もおちく新葉  
かこの新田乃 録乃はあり

上 神のほおり ちるハもんち 中 一 一 一 一

上

すかりち神のぬき 上 後たの

山をの志くれ 上 心をと

こはく 上 能於みあ 上 上 上 上

川をいハ 上 祈うさ 上 上 上 上

上 上

神風松風吹 上 きたま 上 紅葉

ちるま 上 上 上 上 上 上 上 上

ぬきもひる 上 上 上 上 上 上 上 上

再拜 上 上 上 上 上 上 上 上

國おむき 上 上 上 上 上 上 上 上

結ひくわ 上 上 上 上 上 上 上 上

